

変額個人年金保険 四半期運用報告書(2008年4~6月)

Global Partner/Net VA Performance REVIEW

* Global PartnerおよびNet VAは、弊社変額個人年金保険の販売名称です。

ご契約者の皆様へ

日ごろは格別のお引き立てを頂き、誠に有り難く御礼申し上げます。この度2008年4~6月期における特別勘定の運用状況を取りまとめましたのでご報告申し上げます。

なお、このGlobal Partner/Net VA Performance REVIEWは、弊社ホームページにてご覧いただけます。また、毎月の運用状況も同じホームページにて公開致しております。

ホームページアドレス <http://www.axa.co.jp/life/>

お問い合わせ先 0120-778-133

* 受付時間: 平日9:00~17:00(土・日・祝日および12月30日から1月4日は休業とさせていただきます。)

1. 特別勘定の運用方針

特別勘定の種類	運用対象・運用方針	運用協力会社
ライフ・ソリューション 30	日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資。株式の 実質組入れ比率は純資産の30%程度を基本とし、着実な収益の 獲得を目指します。為替リスクは、原則としてフル・ヘッジします。	アクサ・ローゼンバーグ 証券投信投資顧問株式会社
ライフ・ソリューション 50	日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資。株式の 実質組入れ比率は純資産の50%程度を基本とし、好収益の獲得 を目指します。為替リスクは、原則としてフル・ヘッジします。	
ライフ・ソリューション 70	日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資。株式の 実質組入れ比率は純資産の70%程度を基本とし、積極的に好収 益の獲得を目指します。為替リスクは、原則としてフル・ヘッジします。	
日本株式	日本の株式を対象に積極的な運用を行い、信託財産の成長を目 指します。定量スクリーニングや個別企業の訪問を行い、割安でかつ 成長性の高い銘柄を中心に投資します。	
世界株式	世界各国の株式の中から成長の可能性が高いと判断される産業 セクターを通じて、世界の成長株に投資し、長期的に信託財産の成 長を目指します。為替ヘッジを行い、主として円ドル間の為替リスクを 軽減します。	アライアンス・ バーンスタイン株式会社
世界債券	世界各国の投資適格債を主な投資対象として分散投資し、トータル・ リターン(インカムゲインとキャピタルゲイン)を重視します。為替リスクは、原則 としてヘッジしません。	アライアンス・ バーンスタイン・エル・ピー
マネープール	主として円建の短期公社債や、短期金融商品に投資し、安定した 収益の確保を目指します。	アクサ・ローゼンバーグ 証券投信投資顧問株式会社

・当該資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。

また、予告なしに当該資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おください。

・当該資料は、当社の変額保険の運用状況などを開示するためのものであり、生命保険契約の勧誘を目的としたものではありません。

・当該資料の運用実績に関する内容は過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

・商品内容の詳細については「契約締結前交付書面(契約概要/注意喚起情報)(*)」、「リファレンスブック」、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」を併せてご覧ください。

・当該資料に記載されている各表にある金額、比率等はそれぞれの項目を四捨五入していますので、合計等と合致しないことがあります。

*金融商品取引法の2007年9月30日完全施行により配布を開始しております。



アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3
(代表) TEL 03-6737-7777編集・発行 アクサ生命保険株式会社
契約管理センター

2. 運用環境について(2008年4～6月)

【日本株式市場】

当期の日本株式市場は世界的に株価が下落する中、米国の信用力の低い個人向け住宅融資(サブプライムローン)問題の影響が日本では大きくないことや日本経済のインフレ耐性の強さなどを要因として、相対的に堅調な推移となり、前期比でTOPIXは+8.83%、日経平均が+7.63%となりました。期初は、金融不安の後退と円安などを背景に金融・輸出関連株を中心に大幅に上昇して始まりました。また、期中は、決算発表を受けて好業績銘柄が上昇しました。しかし、期末にかけては、サブプライムローン関連の証券化商品の信用を支えたモノライン(金融保証会社)の格下げが発表され、金融不安が再燃したことや原油価格高騰によるインフレ懸念の拡大から、下落に転じました。

需給面では、外国人投資家が前期の大幅売り越しから一転して、12週連続買い越しとなっていることも日本株式市場の上昇をサポートしました。一方で、前期買い越しだった信託銀行は売り越しとなりました。個人では、4月、5月と売り越しだったものの、6月には買い越しに転じました。

【米国株式市場】

当期の米国株式市場の主要株価指数は、ダウ平均株価 7.44%、S&P500種株価指数 3.23%、ナスダック指数+0.61%となりました(いずれも現地通貨ベース)。期初は、マクロ経済指標が依然として弱いながらも、信用不安の後退や大手金融機関の増資などを受けて、堅調に推移しました。金融機関などの1～3月期決算の業績悪化を懸念して一時的に下落しましたが、その後は、新たな悪材料が発表されなかったことやグローバル企業の決算で海外需要の堅調さが示されたことなどを受け、株価は再度上昇しました。期中は、保険最大手AIGの1～3月期決算でサブプライムローン問題に絡む損失が膨らんだことや、金融最大手シティグループの資産売却などの金融セクターにおける悪材料があり、株価は調整局面を迎えました。期末にかけては、格付け会社ムーディーズがモノラインの信用格付けを引き下げたことから下落基調が続きました。また、燃料コストの上昇や米国景気の減速を受けて運送業大手が業績予想を下方修正するなど、金融機関以外でも悪材料が相次ぎ、下落幅は拡大する展開となりました。

連邦公開市場委員会(FOMC)は、4月末に 0.25%の政策金利引き下げを実施しました。

【欧州株式市場】

当期の欧州株式市場の主要株価指数は、MSCI欧州株価指数 5.18%、英FT100指数 1.34%、仏CAC指数 5.78%、独DAX指数 1.79%となりました(いずれも現地通貨ベース)。期初は、スイス銀行大手UBS や米国証券大手リーマン・ブラザーズによる資本増強策の発表や、米国金融当局が金融市場の混乱に直接的に関与する姿勢を強めたことなどを背景に、金融市場の混乱が徐々に収束しつつあるとの見方が強まり、金融セクターを中心に上昇して始まりました。欧州株式市場では、特に、商品価格高騰の恩恵を受ける石油・ガスおよび素材セクターの寄与度は大きく、市場全体の上昇につながりました。期中は、上下変動の激しい値動きとなりました。米国の経済指標が概ね予想を上回ったことなどが買い材料となり、上昇する局面もありましたが、原油価格の続騰に伴う商品価格の高騰は、個人消費の減速や企業のコスト上昇懸念を呼び、欧州株式市場の重石となりました。期末にかけては、WTI原油先物価格が1バレル=140米ドル台を突破するなど、商品価格が続騰し、世界的にインフレ懸念が高まったことは悪材料となりました。また、欧州中央銀行(ECB)が物価上昇に対応するため、政策金利を引き上げる姿勢を見せたことや、更なるユーロ高の進行も欧州株式市場の下落を加速させました。

【為替市場】

当期の為替市場では、引き続き米国のサブプライムローン問題に伴う金融不安、米国および主要国景気動向、金融政策の方向性等が主要なテーマとなりました。期初は、米国3月ISM製造業景況指数が予想より強い結果となったことなどが、米国の景気減速懸念の後退につながり、米ドルの買い戻し基調で始まりました。その後、米国大手金融機関の決算発表が、総じて市場予想の範囲内となり、金融不安が後退したことから、米連邦準備制度理事会(FRB)の利下げ観測の後退、株価上昇、長期金利の上昇につながりました。期中も、米国4月雇用統計が予想を上回ったことなどにより、米ドルに対する市場心理は改善方向となりました。しかし、期末にかけては、米国の景気減速懸念、FRBのインフレ懸念の表明等の悪材料から、米ドルに対する評価は方向感を変えました。

ユーロ/米ドルは、米ドル要因に加えて、ECBのインフレ阻止の姿勢や欧州経済の景況感を材料に、1.54米ドル程度から1.60米ドル程度の間で動きました。

円は、米国に対する市場心理の改善を受けて、米ドルが買い戻される過程で、主要通貨に対して弱含む展開となりました。前期に99円台をつけた米ドル/円は、当期後半には108円台に乗せる場面もありました。また、原材料価格高騰による企業景況感の大幅悪化等、国内景気の更なる減速懸念が強まり、日銀の金融政策変更の可能性が低下したことも、円軟調の動きを後押ししました。

(参考指標)

		2008年3月末	2008年6月末	変化率
日本	TOPIX(東証株価指数)	1,212.96 ポイント	1,320.10 ポイント	8.83%
	日経平均	12,525.54 円	13,481.38 円	7.63%
	新発10年国債	1.275 %	1.610 %	0.335上昇
米国	NYダウ	12,262.89 ドル	11,350.01 ドル	-7.44%
	S&P500	1,322.70 ポイント	1,280.00 ポイント	-3.23%
	NASDAQ	2,279.10 ポイント	2,292.98 ポイント	0.61%
	10年国債	3.410 %	3.969 %	0.559上昇
欧州	FT100	5,702.10 ポイント	5,625.90 ポイント	-1.34%
	CAC40	4,707.07 ポイント	4,434.85 ポイント	-5.78%
	DAX	6,534.97 ポイント	6,418.32 ポイント	-1.79%
	独10年国債	3.899 %	4.621 %	0.722上昇
為替	米ドル/円レート	100.19 円	106.42 円	6.22%円安
	ユーロ/円レート	158.19 円	168.07 円	6.25%円安

* 各国10年国債は、ジェネリック日本指標国債10年単利(日本)、ジェネリック米国利回り10年(米国)、ドイツ国債10年の利回り(欧州)を表示しております。

* 為替は、株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信相場仲値を採用しております。

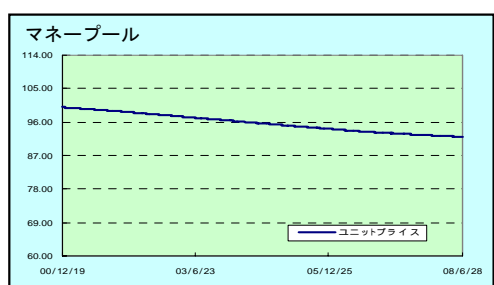
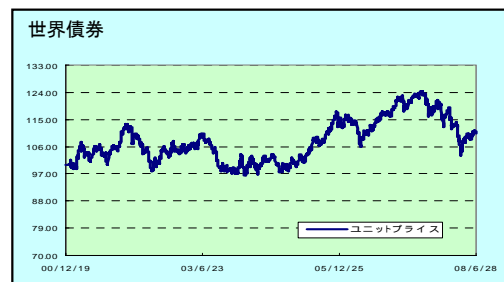
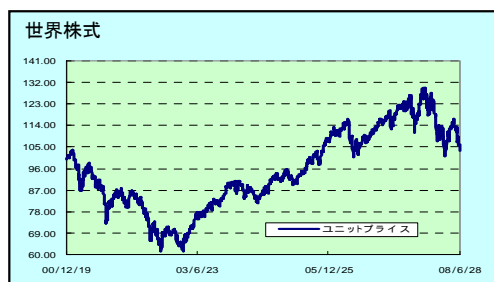
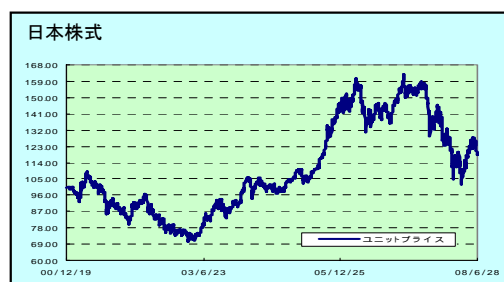
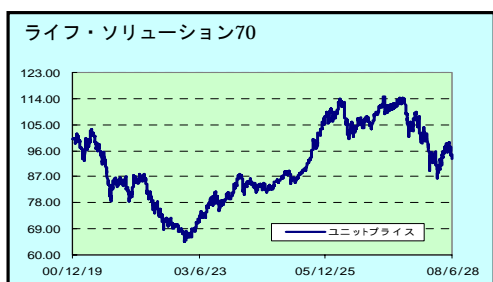
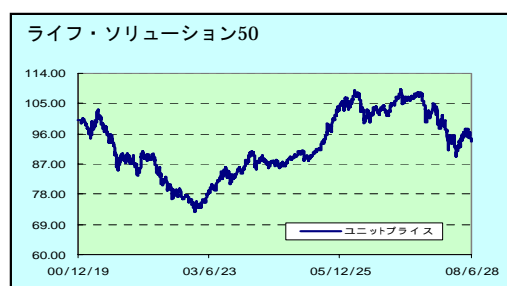
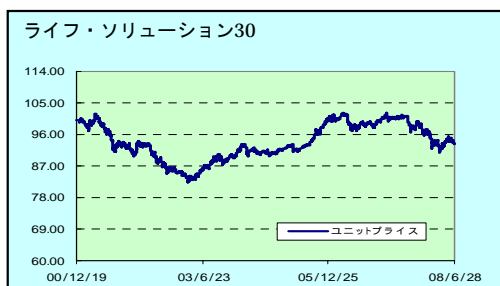


アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3
(代表)TEL 03-6737-7777

編集・発行 アクサ生命保険株式会社
契約管理センター

3. 特別勘定ユニットプライスの推移 (2008年6月現在)



- * ここでは特別勘定のユニットプライスの数値の推移を表しています。
- * ユニットプライスは、2000年12月18日のプライスを100としてスタートしています。
- * 特別勘定のユニットプライスは、各特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。
- * 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなっています。後者については、運用協力会社の裁量の範囲外となります。

(各特別勘定のユニットプライスは、各営業日毎日ご確認いただくことができます)

ホームページアドレス : <http://www.axa.co.jp/life/>

iモード : <https://online.axa.co.jp/ClientWeb/mobile.jsp>



アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3
(代表) TEL 03-6737-7777

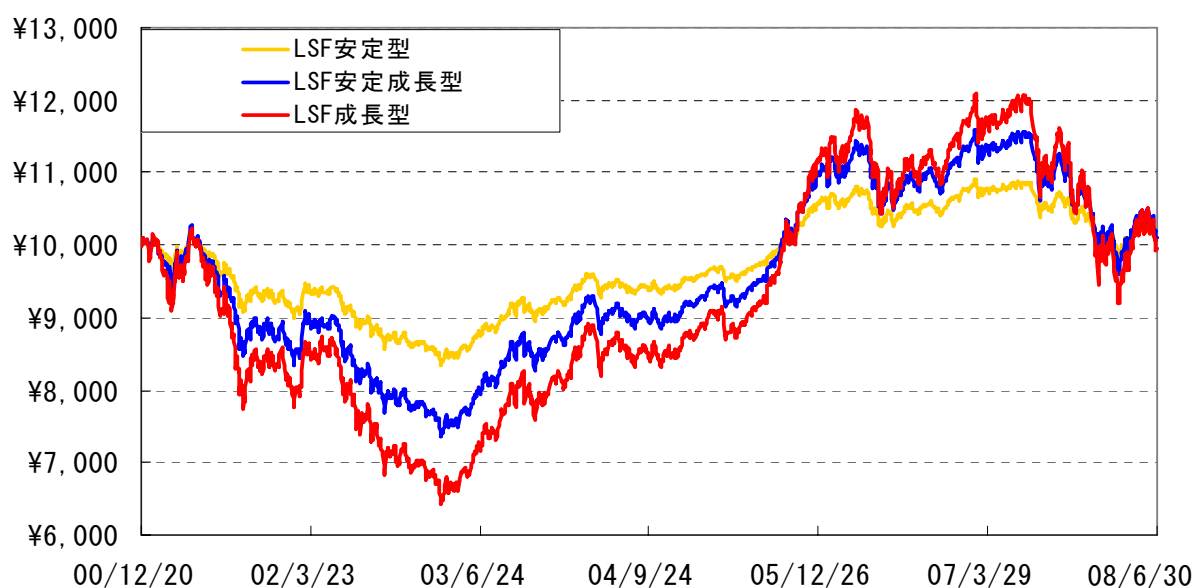
編集・発行 アクサ生命保険株式会社
契約管理センター

4. 特別勘定「ライフ・ソリューション30・50・70」の状況(2008年4～6月)

【運用協力会社】 アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社

【運用方針】 日本および欧米各国の株式・公社債を対象に分散投資。株式の実質組入れ比率は純資産の30%・50%・70%程度を基本とし、収益の獲得を目指します。為替リスクは、原則としてフル・ヘッジします。
「アクサ・ローゼンバーグ・ライフ・ソリューション・ファンド・安定型・安定成長型・成長型(B)〈適格機関投資家私募〉」に投資を行います。

基準価額の推移



LSF30 (安定型) 資産配分比率

LSF30	資産配分 (6月末現在)	基本 アロケーション
日本株式	23.8%	24.0%
米国株式	2.9%	3.0%
欧州株式	2.8%	3.0%
円建債券	31.0%	30.0%
短期金融資産等	39.5%	40.0%
合計	100.0%	100.0%

LSF50 (安定成長型) 資産配分比率

LSF50	資産配分 (6月末現在)	基本 アロケーション
日本株式	40.1%	40.0%
米国株式	4.9%	5.0%
欧州株式	4.7%	5.0%
円建債券	25.7%	25.0%
短期金融資産等	24.6%	25.0%
合計	100.0%	100.0%

LSF70 (成長型) 資産配分比率

LSF70	資産配分 (6月末現在)	基本 アロケーション
日本株式	55.2%	55.0%
米国株式	7.1%	7.5%
欧州株式	7.0%	7.5%
円建債券	18.0%	17.5%
短期金融資産等	12.7%	12.5%
合計	100.0%	100.0%

*ここでは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額の推移等を表しています。

*当該資料は、特別勘定の主要対象である投資信託の運用状況等を説明した資料です。将来の運用実績を示唆しまたは保証するものではありません。

*変額個人年金保険は生命保険商品であり、投資信託ではありません。また本商品を通じてご契約者が直接投資信託を購入するということではありません。

*特別勘定資産には、投資信託のほかに、保険会社が保険契約の異動に備える部分も含まれています。後者については運用協力会社の裁量の範囲外となります。また特別勘定のユニットプライスの値動きは、投資信託の基準価額の値動きと異なります。



アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3
(代表)TEL 03-6737-7777

編集・発行 アクサ生命保険株式会社
契約管理センター

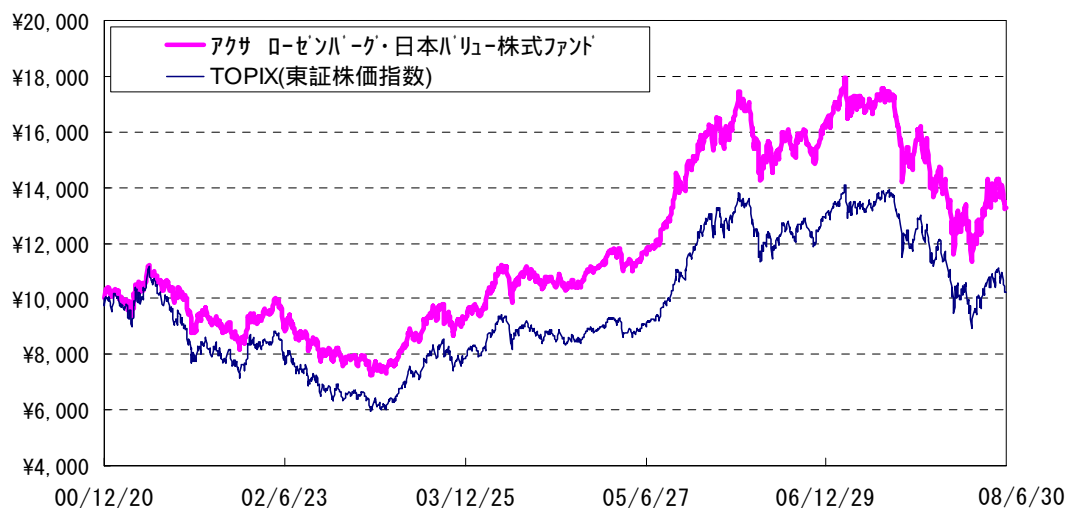
5. 特別勘定「日本株式」の状況(2008年4～6月)

〔運用協力会社〕 アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社

〔運用方針〕 日本の株式を対象に積極的な運用を行い、信託財産の成長を目指します。定量スクリーニングや個別企業の訪問を行い、割安でかつ成長性の高い銘柄を中心に投資します。
「アクサ・ローゼンバーグ・日本バリューストックファンド(B) <適格機関投資家私募>」に投資します。

〔ベンチマーク〕 TOPIX

基準価額の推移



セクター別構成比率

	セクター	比率
1	卸売業	14.4%
2	電気機器	14.0%
3	化学	11.1%
4	銀行業	10.2%
5	輸送用機器	7.7%
-	その他	42.6%

市場別構成比率

	市場	比率
1	東証1部	96.8%
2	東証2部	1.2%
3	ジャスダック	1.0%
4	名証	0.5%
5	大証	0.5%
-	その他	0.0%

組入上位10銘柄

	銘柄	業種	比率
1	三菱商事	卸売業	3.5%
2	日本電信電話	情報・通信業	3.3%
3	三井物産	卸売業	2.9%
4	トヨタ自動車	輸送用機器	2.8%
5	日立製作所	電気機器	2.7%
6	ジェイ・エフ・イー・ホールディングス	鉄鋼	2.7%
7	東芝	電気機器	2.6%
8	国際石油開発帝石ホールディングス	鉱業	2.6%
9	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	2.3%
10	富士通	電気機器	2.3%
合計			27.7%
組入銘柄数			372銘柄

* 上記比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

* ここでは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額の推移等を表示しています。

* 当該資料は、特別勘定の主要対象である投資信託の運用状況等を説明した資料です。将来の運用実績を示唆または保証するものではありません。

* 変額個人年金保険は生命保険商品であり、投資信託ではありません。また本商品を通じてご契約者が直接投資信託を購入ということではありません。

* 特別勘定資産には、投資信託のほかに、保険会社が保険契約の異動に備える部分も含まれています。後者については運用協力会社の裁量の範囲外となります。また特別勘定のユニットプライスの値動きは、投資信託の基準価額の値動きと異なります。



アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3
(代表) TEL 03-6737-7777編集・発行 アクサ生命保険株式会社
契約管理センター

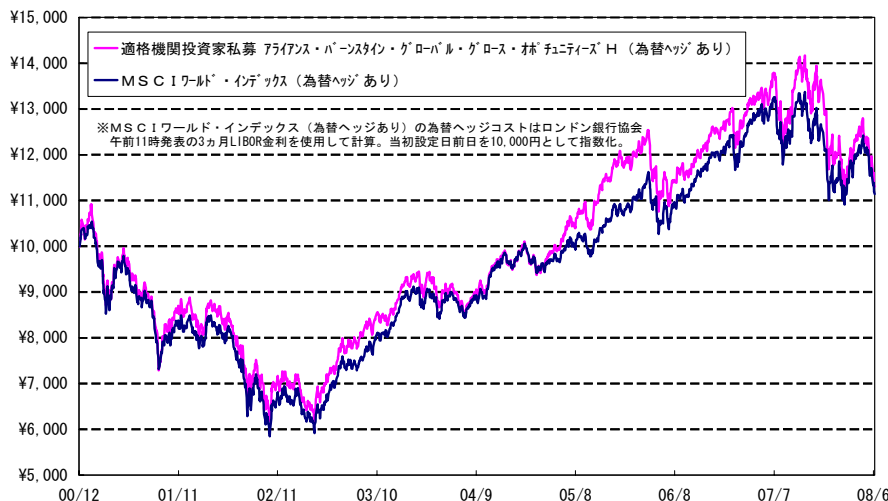
6. 特別勘定「世界株式」の状況(2008年4～6月)

【運用協力会社】 アライアンス・バーンスタイン株式会社

【運用方針】 世界各国の株式の中から成長の可能性が高いと判断される産業セクターを通じて、世界の成長株に投資し、長期的な信託財産の成長を目指します。
外貨建資産に関しては、原則として為替ヘッジを行い、主として円ドル間の為替変動リスクの軽減を図ります。「適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズH(為替ヘッジあり)」に投資を行います。

【ベンチマーク】 MSCIワールド・インデックス(為替ヘッジあり)

基準価額の推移



セクター別構成比率

	セクター	比率
1	エネルギー・天然資源	29.0%
2	金融サービス	16.7%
3	消費関連	15.5%
4	情報・通信テクノロジー	14.0%
5	インフラストラクチャー	13.0%
6	ヘルスケア	9.5%
-	現金等	2.4%

国別構成比率

	国名	比率
1	アメリカ	50.2%
2	イギリス	11.7%
3	スイス	7.7%
4	日本	5.6%
5	ブラジル	2.9%
-	その他の国	19.4%
-	現金等	2.4%

組入上位10銘柄

	銘柄	国名	セクター	業種	比率
1	リオ・ティント	イギリス	エネルギー・天然資源	鉱業	2.9%
2	ウォルマート	アメリカ	消費関連	小売	2.8%
3	EOGリソース	アメリカ	エネルギー・天然資源	石油・天然ガス	2.7%
4	エクストラータ	イギリス	エネルギー・天然資源	鉱業	2.3%
5	ペーカー・ヒューズ	アメリカ	エネルギー・天然資源	油井用機器	2.3%
6	ノーブル・エナジー	アメリカ	エネルギー・天然資源	ガス	2.1%
7	ファニーメイ	アメリカ	金融サービス	モーゲージローン	2.0%
8	クレディ・スイス・グループ	スイス	金融サービス	総合金融	1.9%
9	ネスレ	スイス	消費関連	食品・飲料	1.7%
10	エア・プロダクツ・アンド・ケミカルズ	アメリカ	エネルギー・天然資源	工業用ガス・化学品	1.7%
合計					22.4%
組入銘柄数					131銘柄

* 上記比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。(なお、上記比率はマザーファンドベースです。)

* ここでは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額の推移等を表示しています。

* 当該資料は、特別勘定の主要対象である投資信託の運用状況等を説明した資料です。将来の運用実績を示唆または保証するものではありません。

* 変額個人年金保険は生命保険商品であり、投資信託ではありません。また本商品を通じてご契約者が直接投資信託を購入するということではありません。

* 特別勘定資産には、投資信託のほかに、保険会社が保険契約の異動に備える部分も含まれています。後者については運用協力会社の裁量の範囲外となります。また特別勘定のユニットプライスの値動きは、投資信託の基準価額の値動きと異なります。



アクサ生命保険株式会社

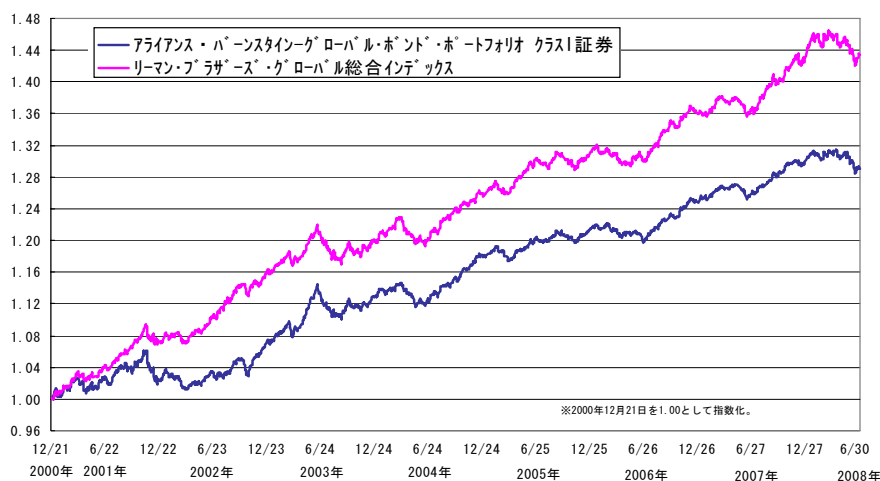
〒108-8020 東京都港区白金1-17-3
(代表) TEL 03-6737-7777

編集・発行 アクサ生命保険株式会社
契約管理センター

7. 特別勘定「世界債券」の状況(2008年4~6月)

- 〔運用協力会社〕 アライアンス・バーンスタイン・エル・ピー
- 〔運用方針〕 世界各国の投資適格債を主な投資対象として分散投資し、トータル・リターン(インカムゲインとキャピタルゲイン)を重視します。
為替リスクは、原則としてヘッジしません。
「アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ボンド・ポートフォリオ クラスI証券」に投資を行います。
- 〔ベンチマーク〕 リーマン・ブラザーズ・グローバル総合インデックス

基準価額の推移



格付別構成比率

	格付	比率
1	AAA	40%
2	AA	31%
3	A	16%
4	BBB	12%
5	BB	1%

投資国別構成比率

	国名	比率
1	米国	36%
2	日本	22%
3	フランス	8%
4	イギリス	6%
5	ドイツ	5%
-	その他	23%

組入上位10銘柄

	銘柄名	格付け		組入比率
		S&P	ムーディーズ	
1	日本国債	AA	Aa3	19.4%
2	ファニーメイ	AAA	Aaa	8.0%
3	フランス国債	AAA	Aaa	6.9%
4	ドイツ国債	AAA	Aaa	3.4%
5	スウェーデン国債	AAA	Aaa	3.3%
6	日本政策投資銀行	AA-	Aaa	2.4%
7	カナダ国債	AAA	Aaa	2.2%
8	JPMCC	AAA	Aaa	1.8%
9	ノルウェー国債	AAA	Aaa	1.8%
10	LBUBS	AAA	Aaa	1.7%
合計				50.9%

* 上記比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

* ここでは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額の推移等を表しています。

* 当該資料は、特別勘定の主要対象である投資信託の運用状況等を説明した資料です。将来の運用実績を示唆しまたは保証するものではありません。

* 変額個人年金保険は生命保険商品であり、投資信託ではありません。また本商品を通じてご契約者が直接投資信託を購入ということではありません。

* 特別勘定資産には、投資信託のほかに、保険会社が保険契約の異動に備える部分も含まれています。後者については運用協力会社の裁量の範囲外となります。また特別勘定のユニットプライスの値動きは、投資信託の基準価額の値動きと異なります。



アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3
(代表) TEL 03-6737-7777

編集・発行 アクサ生命保険株式会社
契約管理センター

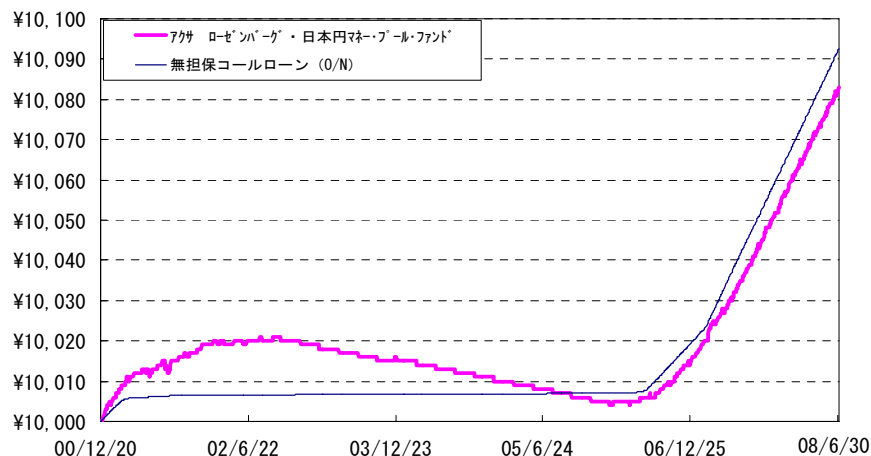
8. 特別勘定「マネープール」の状況(2008年4～6月)

〔運用協力会社〕 アクサ・ローゼンバーグ証券投信投資顧問株式会社

〔運用方針〕 主として円建の短期公社債や、短期金融商品に投資し、安定した収益の確保を目指します。
「アクサ・ローゼンバーグ・日本円マネー・プール・ファンド(B) <適格機関投資家私募>」に投資します。

〔ベンチマーク〕 日本円無担保コールオーバーナイト物レートにより日々運用したときに得られる投資収益を指数化したもの

基準価額の推移



信託財産の構成

	組入比率	デュレーション
公社債	24.9%	0.16年
短期資産等	75.1%	0.11年
合計	100.0%	0.12年

公社債の内訳

	組入比率	デュレーション
国債	0.0%	0.00年
地方債	10.0%	0.25年
特殊債	29.9%	0.22年
金融債	0.0%	0.00年
普通社債	60.1%	0.11年
その他	0.0%	0.00年
合計	100.0%	0.16年

短期資産等の内訳

	組入比率
CD	0.0%
CP	0.0%
TB/FB	88.9%
コールローン	11.1%
その他	0.0%
合計	100.0%

公社債の格付別構成比率

格付区分	構成比率
AAA	0.0%
AA	49.8%
A	0.0%
BBB	50.2%
BB以下(無格付含)	0.0%
合計	100.0%

短期資産等の格付別構成比率

格付区分	構成比率
P-1	100.0%
P-2	0.0%
P-3	0.0%
無格付	0.0%
合計	100.0%

*格付基準:

- ・海外格付機関の格付を優先します。
- ・海外格付機関の格付取得の無い発行体は、国内格付機関の格付けを採用します。
- ・FB等国債同等の無格付短期資産においては短期格付をP-1格とします。

*ここでは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額の推移等を表しています。

*当該資料は、特別勘定の主要対象である投資信託の運用状況等を説明した資料です。将来の運用実績を示唆または保証するものではありません。

*変額個人年金保険は生命保険商品であり、投資信託ではありません。また本商品を通じてご契約者が直接投資信託を購入するということではありません。

*特別勘定資産には、投資信託のほかに、保険会社が保険契約の異動に備える部分も含まれています。後者については運用協力会社の裁量の範囲外となります。また特別勘定のユニットプライスの値動きは、投資信託の基準価額の値動きと異なります。



アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3
(代表) TEL 03-6737-7777

編集・発行 アクサ生命保険株式会社
契約管理センター

9. 特別勘定資産の内訳(2008年6月)

項目	ライフ・ソリューション30		ライフ・ソリューション50		ライフ・ソリューション70	
	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)
現預金・コールローン	35,498	0.9	55,345	0.8	35,516	0.9
その他有価証券	3,706,279	97.3	6,831,374	96.8	3,763,546	96.6
その他	69,048	1.8	170,350	2.4	98,540	2.5
合計	3,810,826	100.0	7,057,069	100.0	3,897,603	100.0

項目	日本株式		世界株式		世界債券	
	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)
現預金・コールローン	51,673	1.2	28,643	1.4	36,524	1.5
その他有価証券	3,895,831	93.9	1,961,161	95.1	2,291,653	95.6
その他	203,401	4.9	72,757	3.5	68,410	2.9
合計	4,150,905	100.0	2,062,563	100.0	2,396,588	100.0

項目	マネープール	
	金額(千円)	比率(%)
現預金・コールローン	70,634	17.3
その他有価証券	329,285	80.8
その他	7,676	1.9
合計	407,595	100.0

* 金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しておりますが、合計値に対する調整は行っていません。
* 各特別勘定で利用している国内投資信託並びに外国投資信託は、いずれも「その他有価証券」の項目に含まれています。

9. 保有契約高(2008年6月)

項目	件数(件)	基本保険金額(百万円)
変額個人年金保険	17,473	23,808

* 金額の単位未満は切捨てとしました。



アクサ生命保険株式会社
〒108-8020 東京都港区白金1-17-3
(代表)TEL 03-6737-7777

編集・発行 アクサ生命保険株式会社
契約管理センター

10. 用語説明

(英数字)

1. CAC40 フランスの代表的な株価指数で、パリ市場に上場されている銘柄の中から、時価総額や出来高が大きい、代表的な業種に属する40銘柄のことで、CAC40指数は、1987年12月31日の株価を基準値1,000として時価総額加重平均で計算し、1988年11月以来、MATIFと呼ばれるフランス先物市場やMONEPというフランスオプション取引にも利用されています。「CAC」という名称は、前身にあたる「CAC指数」(かつて証券取引の管理、監督、指導全般を担当していた旧証券取引所公認仲介業者組合『Compagnie des Agents de Change』が作成)に由来します。
2. DAX ドイツの先物・オプション取引の開始にあたり、1988年7月からリアル・タイムの指標として導入され、ドイツ8箇所の証券取引所に上場された銘柄のうち、圧倒的な取引額をほこる30銘柄の優良株式を対象としたもので、1987年12月31日の株価を基準値1,000として、時価総額加重平均で算出しています。
3. FT100 イギリスを代表する株価指数で、先物・オプション取引開始に伴い1984年から導入され、1983年12月31日の株価を基準値1,000として時価総額加重平均で算出されています。ロンドン証券取引所に上場されている株式のうち、時価総額が最も大きい100社を対象として、取引所とファイナンシャル・タイムズ社が作成しています。
4. リーマン・ブラザーズ・グローバル総合インデックス 米国リーマン・ブラザーズ社の発表している債券インデックスで、世界主要国の国債、政府機関債、投資適格事業債、証券化商品などの市場のパフォーマンスをあらわすものです。
5. MSCI 米国 Morgan Stanley Capital International 社が開発し、発表している株価指数で、世界の主要国を対象とする株価指数です。グローバルファンドと呼ばれることの多い、世界中の株式に投資するタイプの投資信託の多くが、このインデックスをベンチマークとしています。
6. NASDAQ 全米証券業協会(NASD)が運営する店頭株市場のことで、
7. S&P500 格付会社のスタンダード・プアーズ社が公表している米国の代表的な株価指数であり、市場規模、流動性、業種等を勘案して選ばれた米国の株式500銘柄を時価総額で加重平均したものです。
8. TOPIX 東証市場第一部全銘柄の時価総額が、基準時の時価総額に比較してどのくらい増えたか減ったか、ということを通じて市場全体の株価の動きを表すものです。言い換えれば、株式市場全体の資産価値の変化を通じて、株価の変動をみようとするものです。日本の株式市場に分散投資するタイプのファンドの多くがTOPIXをベンチマークとしています。



アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3
(代表)TEL 03-6737-7777

編集・発行 アクサ生命保険株式会社
契約管理センター

(カタカナ・漢字)

1. インカムゲイン 公社債の利金、株式の配当金などから得られた収益のことを指します。
2. 為替ヘッジ 保有外貨建て資産の為替リスクを回避する取引引き。具体的には為替先物市場で将来の外貨売り・自国通貨買いの予約取引を締結します。
3. 為替リスク 2通貨間の交換レ - トが変動する事。保有外貨に対して自国通貨の交換金額が減少した場合は損失が発生します。
4. キャピタルゲイン 保有証券の値上がりによる収益のことを指します。
5. ディフェンシブセクター 景気後退期でも利益水準がさほど変化しないことから、守りに強いという意味でこう呼ばれる業種のことをいいます。具体的には、需要が景気動向に左右されない食品、薬品などが該当します。利益水準が安定しているので、多くの場合景気後退期では、相対的には好パフォーマンスを実現します。
6. 定量スクリーニング 過去の業績や財務デ - タにより計測されるもので選別する方法です。
7. デュレーション 債券の実質平均回収期間のことをいいます。
8. パフォーマンス 投資成績・運用成績のことをいいます。
9. フェデラル・ファンド (FF)金利 日本の無担保コール翌日物金利に相当します。日米とも民間銀行は預金残高に応じて中央銀行に準備預金を預け、そのために必要な資金を短期市場から調達しています。FF金利や無担保コール金利はその際の金利です。
10. ベーシスポイント 1%の100分の1のことをいいます。1ベーシスポイントは、0.01%です。
11. ベンチマーク その投資信託が運用の指標としている指数(インデックス)です。現在、多くの投資信託が主要な指数をベンチマークとしています。
12. ポートフォリオ 信託財産の運用先(投資対象)構成を示したものです。
13. マーケットセンチメント 市場に参加している投資家や市場関係者の間で支配的な心理状況をいいます。
14. ユニットプライス (単位価格) 各特別勘定資産の積立金の1ユニット(口数)に対する価額のことをいい、特別勘定資産の評価を反映しています。
15. ユニット数 個々の契約に係る積立金のうち、各特別勘定の部分を各特別勘定のユニットプライスで除して求めた数です。契約者における各特別勘定ごとのユニット数は、契約内容の変更等を通じて増減します。



アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3
(代表)TEL 03-6737-7777

編集・発行 アクサ生命保険株式会社
契約管理センター

変額個人年金保険のリスク及び諸費用について

【投資リスク】

この保険は積立金額および年金額等が特別勘定資産の運用実績に応じて変動(増減)するしくみの変額個人年金保険です。特別勘定資産の運用は、投資信託を利用して国内外の株式・公社債等で行なっており、株式および公社債の価格変動や為替変動等に伴う投資リスクがあります。特別勘定資産の運用実績が積立金額に直接反映されますので、運用実績によっては、ご契約を解約した場合の払いもどし金額等が一時払保険料等を下回る場合があります。

【諸費用について】

ご契約者などにご負担いただくこの保険の諸費用は、次のとおりです。

年金支払開始日前

特別勘定のユニットプライス(単位価格)を計算する前にご負担いただく費用

項目	時期	費用	備考
契約初期費用 (増額費用)	特別勘定繰入前	保険料の2.0%	保険料から契約初期費用として2.0%が控除された後の金額が積立金として特別勘定で運用されます。 (増額費用も同じ)
保険契約管理費 (積立金比例額)	毎日	特別勘定の積立金総額に対して 年率1.2%*	当社の経費に充当されます。 (基本保険金額を死亡時に最低保証するための費用および災害死亡保険金のための費用を含みます。)

*毎日その日の始めの特別勘定の積立金総額に年率1.2%の365分の1を乗じた金額を毎日その日の終わりの特別勘定の積立金総額から控除します。

ご契約の内容と取引の内容による費用

特別勘定のユニットプライス(単位価格)を計算した後にご負担いただく費用は、次のとおりです。

項目	時期	費用	備考
保険契約管理費 (件数比例額)	月単位の契約応当日	毎月 100円	契約1件あたり毎月の契約応当日の前日の積立金の合計額から控除します。
積立金移転費用	移転時	<書面による移転申込みの場合> 1回目 1,500円 2回目以降は1回につき2,300円 (*1)	毎回の移転について積立金から控除します。
		<インターネットによる移転申込みの場合> 月1回の積立金の移転は無料 2回目からは1回につき800円 (*1)	1ヵ月に2回以上積立金の移転を行なう場合、2回目からの移転について積立金から控除します。
貸付利息	月単位の契約応当日 および 貸付金の返済時	貸付金額の年利1.2%	貸付金制度を利用されたとき、月単位の契約応当日および貸付金の返済時に、積立金から徴収します。
解約控除	解約時	積立金額の8.0%~0.8%	解約日が契約日または増額日より起算して10年未満の場合には、経過年数(1年未満切り上げ)に応じて、積立金額に対して解約控除率(8%から0.8%)を乗じた金額を積立金額から控除します。
	減額時	減額に相当する積立金額の8.0%~0.8%	減額日が契約日または増額日より起算して10年未満の場合には、経過年数(1年未満切り上げ)に応じて、減額に相当する積立金額に対して解約控除率(8%から0.8%)を乗じた金額を減額に相当する積立金額から控除します。

(*1)月単位の契約応当日から翌月の契約応当日の前日までに積立金移転を行なった回数

貸付制度は、ご契約が成立後、会社の定める範囲内で何回でも貸付を受けることができます。

将来、上記の内容が変更になることがあります。

変額個人年金保険の諸費用について

その他間接的にご契約者にご負担いただく運用関係の費用は、次のとおりです。

項目	時期	費用	備考
運用関係費	毎日	ライフ・ソリューション30 年率0.945%程度(税抜0.900%程度)	特別勘定が利用する投資信託の純資産額に対して控除いたします。
		ライフ・ソリューション50 年率1.050%程度(税抜1.000%程度)	
		ライフ・ソリューション70 年率1.155%程度(税抜1.100%程度)	
		日本株式 年率0.840%程度(税抜0.800%程度)	
		世界株式 年率0.8925%程度(税抜0.850%程度)	
		世界債券 年率0.650%程度*1	
		マネープール 年率0.034125%～年率0.483000%程度 (税抜0.032500%～0.460000%程度)*2	

*1世界債券のみ、ルクセンブルク籍の投資信託を使用しているため、管理報酬等記載しております。管理会社報酬等には、予め定率として決められている管理報酬の他に管理会社報酬が含まれます。その他、お客さまにご負担いただく手数料には、ルクセンブルク大公国の法令に基づく税金等、および有価証券の売買手数料および保有する有価証券の譲渡・償還益および配当やクーポンに対する源泉徴収税等の諸費用がかかることがあります。運用資産額の取引量によって変動するため、費用の発生前に具体的な金額や計算方法を記載することが困難であり、表示することができません。

*2マネープールの運用関係費は、各月の前月最終5営業日における無担保コールオーバーナイト物レートの平均値に応じて毎月見直されます。

運用関係費は、主に利用する投資信託の信託報酬の率を記載しています。信託報酬の他、信託事務の諸費用、有価証券の売買委託手数料および消費税等の税金等の諸費用がかかる場合があります。これらの諸費用は運用資産額や取引量等によって変動するため、費用の発生前に具体的な金額や計算方法を記載することが困難であり表示することができません。特別勘定の種類、運用方針、運用関係費、および運用協力会社は、将来変更される可能性があります。

世界株式の運用関係費は、2008年6月1日付で、年率1.155%程度(税抜1.100%程度)から年率0.8925%程度(税抜0.850%程度)へ変更となりました。

年金支払開始日以後

年金支払開始日以後にご負担いただく費用

項目	時期	費用	備考
年金管理費	年単位の契約応当日	支払年金額の1.0%	年金支払開始日以後、年単位の契約応当日に責任準備金から控除されます。

年金管理費は、将来変更となる可能性があります。